

令和4年度

八尾市市民活動支援ネットワークセンター  
運営に係る業務報告書

特定非営利活動法人やお市民活動ネットワーク

= 目次 =

1. はじめに	.....	1
2. 本編【 業務報告 】		
2.1. 中間支援業務		
2.1.1. 情報収集・情報提供業務	.....	2
2.1.2. 社会貢献活動等の支援業務	.....	3
2.1.3. 多様な主体による連携・協力促進業務	.....	5
2.2. 「つどい」の管理運営業務		
2.2.1. 管理運営の時間帯等	.....	6
2.2.2. 管理運営業務の内容	.....	6
2.3. 組織体制	.....	8
2.4. 業務報告及び評価（マネジメントサイクル）	.....	9
2.5. 「つどい」を介して連携につながった相談対応等	.....	15
2.5. 課題と改善点	.....	21

## 1. はじめに

八尾市市民活動支援ネットワークセンターは、平成 16（2004）年 10 月 1 日に市民活動・ボランティア活動の拠点として、市民活動団体と長年の協議のうえ、八尾市が設置しました（愛称は「つどい」）。3 月末現在で、開設から 18 年半になります。

運営は八尾市より「特定非営利活動法人 やお市民活動ネットワーク」が受託しています。

さて、「つどい」は「多様な活動主体による協働づくりと公益を生み出す中間支援センター」を目指し、市民活動団体やこれから携わりたい方に加え、「多様な活動主体を支援・連携をコーディネートする中間支援センター」として、長年に渡り業務を行っております。

昨年度より「八尾市 第 6 次総合計画 ～八尾新時代しあわせ成長プラン～」の計画期間となり、「共創と共生の地域づくり」に向けて取り組んできました。対話の場を設け、地域の課題解決や魅力創出の取組みを総合的に進める「校区まちづくり協議会」が中心に担われる中、「つどい」等の中間支援組織は校区に限らず市内各地域や市外とのネットワークを活用し、外部人材等の紹介や課題解決のヒントとなる情報提供等を行うことで活動支援を行わせていただきました。

若年層スタッフが、八尾市や「校区まちづくり協議会」等の連携により、校区まちづくり協議会のワークショップの開催支援で携わり、これまでの「地域活動」から「地域のまちづくり」へと意識した取組みに貢献させていただき、「わがまち推進計画」の策定にも寄与することが出来ました。また引き続き、Zoom 講習会の講師及び QR コード作成・Google フォーム作成等のレクチャーなども支援致しました。校区まちづくり協議会や八尾市コミュニティ推進スタッフ等のつながりが深まり、連携も定着化して参りました。

若年層スタッフが「つどい」業務の主軸を担い、これまでの「業務責任者主体」の運営から「フルタイムスタッフ・学生スタッフ主体及び業務責任者主体」の運営に移行することが出来ました。

徐々に活動の再開などの動きが出だし、館内の来館者や利用状況も底を打ち上昇傾向に入りました。業務責任者は、従来からの市民活動団体の支援再開の機会が増え、従来からの関係団体とのつながりや支援を継続して参ります。昨年 12 月で業務責任者を拝命して 11 年が経ち、脇役に徹しながらも、経営者として最終目的である人や社会のお役に立ちたいと心から想い、世界の平和・人類の平和を心から願いながら、中間支援を行い、公益を生み出す『人財』と『事業』を残して行くことに専念し、残り 1 年半後の「つどい」開設丸 20 年に向けて遂行させていただきます。

今年度から、公募型プロポーザル応募時に提案で掲げたコンセプト「人づくり・人育て」へ向けた業務委託契約（4 ヶ年度）の 2 ヶ年度目のご報告をさせていただきます。

令和 5（2023）年 3 月

特定非営利活動法人 やお市民活動ネットワーク

理事長 西田 裕

副理事長 兼 事務局長（つどい業務責任者） 新福 泰雅

## 2. 本編【 業務報告 】

### 2.1. 中間支援業務

#### 2.1.1. 情報収集・情報提供業務

##### (1) 多様な主体による社会貢献活動に関する情報収集

###### ■ 各種活動団体の情報の収集

FM ちゃお「情報プラザやお」の番組収録に 9 回出向き、環境活動等に取り組む団体や個人の活動内容を収集した。昨年 1 月から動画収録を兼ねることになり文書にまとめる収集業務は不要になった（今年度末で降板した）。

###### ■ 交流会開催時の情報の収集

山本コミセンラウンドテーブルを 6 回開催し、参加された校区まちづくり協議会・山本出張所から情報を収集した。

###### ■ つどい井戸端会議（全て Zoom にて開催）開催時の情報収集

毎月 1 回計 12 回開催を行い、多様なテーマから参加者の活動内容や意見などを収集した。

###### ■ その他の情報収集

「プリズム運営ネットワーク会議」に参加し、「プリズムホール」「FM ちゃお」「八尾市観光協会」の近況活動等について情報を収集した。

##### (2) 多様な主体による社会貢献活動に関する情報提供

###### ■ 広報支援・助成金情報の発信

- ・ 広報支援（情報発信の支援）としては、つどいブログ・SNS（Face book・Instagram・Twitter）を使って各種活動情報を発信（97 件：前年度比+46 件）。
- ・ 「つどいブログ」での助成金情報の掲載（9 件：前年度比▲9 件）。
- ・ これまで 10 年以上に渡る「八尾市市民活動支援基金事業助成金」に関する取材記事をサイトに集約した。助成金事業を行う 5 団体の活動取材しブログに掲載を実施。これらの情報がより提供しやすく充実したことをつどいホームページ「つどいトピックス」に情報提供を実施した。

###### ■ 各活動主体が必要としている情報提供（個別対応）

- ・ 個別に対応し情報を提供（17 件：前年度比+8 件）。
- ・ 広報の個別支援（城正会ちびっ子まつりの広報を行い、八尾市観光協会、号外 NET 八尾と広報が広がり来場者増加の起因につながった）
- ・ 市民主体のまちづくりにおける現状と課題の情報提供（個人が地域活動への参画する支援につながった）
- ・ つどいとまち協の協働取組み事例紹介（山本コミセンラウンドテーブル）
- ・ 図解資料の作成及び提供（行事開催時に提供したことで、開催趣旨が参加者に浸透し、関連書籍を手にとられる起因につながった）
- ・ 行事出展物の提供（写真に撮影された建築物の所有者は、当時の建築物・風景がわかる記録がないと仮定し、写真の存在と所在を情報提供した。主催者と所有者の橋渡し役として、行事出展物の写真を提供し、所有者の敷地内で写真展示され、歴史資料の活用につながった）
- ・ ウクライナ支援に関する情報提供及び声掛け（情報提供及び声掛けを機会に寄附が広が

- り、また自ら寄附の呼掛けを行事開催時に行うなど支援が広がる起因となった)
- ・ 新しい情報提供先としての顔合せ(顔合せ後、行事開催チラシを町会の電子回覧を実施)
- ・ 誰でも作成できる「Canva」の情報提供とそれを活用したフリーペーパーの提供(山本コミセンラウンドテーブルで出た意見を基に情報提供し、議事録に基づく情報をフリーペーパーにまとめサンプルを提供)
- ・ 今後の連携先の紹介・顔合せ：行事企画者と体験プログラムの提供者を顔合せ(次年度に向けた体験会・講座の行事を連携して実施する予定)

■ その他の情報提供

- ・ 「つどい登録団体」へ「八尾市市民活動支援基金事業助成金」の募集案内をメールと郵便で実施(2022年度募集：6月実施、2023年度募集：3月実施)
- ・ つどいホームページ「つどい登録団体紹介ページ」の更新として、PDF化した取材時の記事閲覧出来るようリンクの貼付け及び更新を実施。
- ・ 「つどいパンフレット」を追加で500部印刷(5カ年度で累計5,500部を印刷)。
- ・ こども政策課の『八尾市こどもサイト「あつまれ八尾っ子！！」イベントカレンダー』への「つどい登録団体」情報の掲載。

## 2.1.2. 社会貢献活動等の支援業務

### (1) 社会貢献活動に関する相談

■ スタッフによる相談対応

- ・ 今年度は、昨年度より相談件数が17件増加(14.9%)し、131件となった。

<相談業務記録>

相談内容 (複数該当あり)				活動主体								相談分類		
紹介・提案	レクチャー	助成金対応	その他	市民	市民活動団体	地域活動団体	行政	公共施設	事業者	教育機関	その他	設立相談	運営相談	NPO法人以外
113	17	1	0	39	36	20	6	3	21	5	1	2	2	127
131				131								131		

なお、相談業務記録は前項の「2.1.1.(1)多様な主体による社会貢献活動に関する情報収集」業務の聞き取りも兼ねてデータベースに入力した。

### (2) 校区まちづくり協議会活動の効果検証支援

- ・ 高安西小学校区まちづくり協議会において「支援に至った経緯」「支援補法」「効果」「効果が見られた場所：様子」について、簡単ではあるか検証をまとめた。
- ・ ワークショップ形式を取り入れ支援したことで、「対話の場」づくりにどのような効果や課題があったか(階層型組織からネットワーク型組織への意識の変化や移行)。加えて校区まちづくり協議会が「わがまち推進計画」の策定にあたってワークショップの実施がどのような効果や課題があったかを検証する機会となった。

### (3) 社会貢献活動に係るスキルアップの支援

#### ■ 校区まちづくり協議会等へのスキルアップ支援

- ・ 八尾小学校校区まちづくり協議会に Google フォーム研修を実施。
- ・ まち協向け Twitter 研修を実施（コミュニティ推進スタッフと協力してレクチャーを行うため、コミスタ向けに事前研修も実施）。
- ・ 東山本小学校校区まちづくり協議会ラウンドテーブルのオンライン併用開催にあたっての操作レクチャー支援の実施。

#### ■ 校区まちづくり協議会等へのスキルアップ支援（わがまち推進計画の策定）

- ・ まちづくりワークショップにおける「対話の場づくり」が行いやすい環境づくりを目的に、下記の5校区まちづくり協議会において、準備段階から当日の進行までの支援を実施。わがまち推進計画の策定づくりの対話の場づくりにも貢献。

★高安西小学校校区まちづくり協議会（6月）※

★山本小学校校区まちづくり協議会（7月）※

★南高安小学校校区まちづくり協議会（9月）

★曙川小学校校区まちづくり協議会（11月）

★八尾小学校校区まちづくり協議会（12月）

※ 高安西小学校校区まちづくり協議会においては、事前に進行を行う方へのアドバイスや当日プログラム作成の支援を実施。主催者自らがワークショップを開催できるためのノウハウ提供及び自主性・主体性のさらなる向上を目的に実施。第2回目は健康づくりをテーマに1月開催へ向けた準備の支援を実施していたが、感染拡大に伴い開催を中止し、次年度に延期した。

※ 山本小学校校区まちづくり協議会は、まちづくりワークショップの実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響からか参加人数が芳しくなかったため、内容を変更し、ワークショップ内容のブラッシュアップとグラフィックレコーディング体験を実施。

#### ■ 校区まちづくり協議会の地域住民アンケート作成のアドバイス及び操作レクチャーの支援

- ・ 紙媒体と Google フォームの2種類。紙媒体は、読みやすくなるためのレイアウトのアドバイスを実施。Google フォームは、フォーム作成から QR コード作成の操作方法を実施。

#### ■ 小学生対象のワークショップ型インタビューの補助・ファシリテーション補助

- ・ 東山本小学校児童会に向けたワークショップ型インタビュー補助として、児童が意見を言いやすい空気づくりのために補助を行い、児童にインタビューを実施。今後の校区まちづくり協議会の活動に反映させるために、より沢山の意見収集につながった。
- ・ 高美小学校6年生に向けたワークショップでのファシリテーション補助として、授業時間を用いて実施。進行は「やお地域まちづくりアドバイザー」が行い、各グループのファシリテーターをサポートする補助として「つどい」が携わった。

#### ■ 人権コミュニティセンターへのスキルアップ支援

- ・ 昨年度、開催に向けた打合せを経て、6月から9月まで就労支援 Zoom 講座を4回実施。

#### ■ その他のスキルアップ支援（上掲に関連した内容を掲載）

- ・ 「つどいの学習座談会」として「養育里親＝はぐぐみホーム」を2回連続で開催（インターンシップ生のカリキュラムとスタッフの内部研修も兼ねて実施）。
- ・ 第3回 つどいの学習座談会に向けた話題提供者との打合せも実施。

- ・ 「つどいの広場 あ〜いあいひろば」アドバイザー対象のLGBTQに関する座談会に「つどい」の学生スタッフが話題提供者としてリモート出演。
- ・ 講師派遣等の依頼状況の管理・把握として講師依頼等の受付表の作成を実施。

#### (4) 社会貢献活動への参加支援業務

##### ■ つどい体験会の開催

- ・ 今年度は、4回開催。引き続き、「特定非営利活動法人自然環境会議八尾」と「エコロジー美園小」との共催により、中環の森において「つどい体験会」を実施する事が出来た。
- ・ 河内木綿の栽培で携わる「美園小学校区まちづくり協議会」との協働を継続することが出来た。

##### ■ 交流会の開催

- ・ 今年度は、計18回開催。

<内訳>

「つどい支援井戸端会議」Zoomによるリモート開催を毎月1回、計12回

「山本コミセンラウンドテーブル」偶数月1回、計6回

- ・ 「つどい井戸端会議」では、特にテーマは定めず、協働や活動の悩みを共有した。子どもの健全育成に関する話題、町会課題の事例では児童の登下校時における道路幅員による交通事故危険性の意見に関する話題、町会運営アプリ「結ネット」の話題提供など多岐に渡る内容とテーマから市民主体のまちづくりを意識してもらう機会を提供した。「つどい井戸端会議」でつながった方の活動先への訪問など参加者同士の交流が深まった。情報提供やつどい井戸端会議を通じて、孤独になりがちな子育てにおいて、校区まちづくり協議会の防災活動に参画する機会につなげることが出来た。無料版のZoomを活用し、1時間半から2時間の開催の内、3回程度Zoom入室する練習及びチャレンジを兼ねて開催した。その事でZoomを利用できる参加者が定着した。
- ・ 「山本コミセンラウンドテーブル」では、地域活動団体同士の顔合せの場となり、各小学校区での事業の取組み方の共有や、校区まちづくり協議会に関する情報提供に努めた。

### 2.1.3. 多様な主体による連携・協力促進業務

#### (1) 連携・協力のコーディネート

- ・ 相談対応後の経過状況は、今年度の相談対応から団体紹介等によるマッチングが大半であった【マッチング件数：39件】（昨年度の相談対応によるマッチングはなかった）。

##### ■ 連携・協力に関するその他の事項

- ・ 西山本小学校区まちづくり協議会からの依頼により、子ども向けの行事開催・運営において、若年層の参画がないと成り立たなくなったことから、若年層が構成する市民活動団体とのつながり方がわからないことがヒアリング対応で知った。若年層が構成する市民活動団体を2団体、個人1名が地域活動団体主催のイベントに参加し、西山本小学校区まちづくり協議会会長とコミュニティ推進スタッフに紹介を実施。あわせて当小学校区で活動するつどい登録団体「地域で子育て応援隊」も顔合せを実施。今後、7月開催に向けて参加・協働による連携予定である。

## (2) 先進的な取り組み事例の収集

- ・吹田市立市民公益活動センター「ラコルタ」で開催された「ムリなく楽しくネットワーク型地域活動のススメ」に参加した。「階層組織型」「ネットワーク型」の定義及び既存団体へ若年層が参画しない原因が「階層組織型」である点を収集した。加えて「ネットワーク型」に共感・参画する事例を収集しながら、ファシリテーション能力が「ネットワーク型」で肝になりことを収集した。「階層組織型」から「ネットワーク型」に意識・移行するには「ワークショップ」を導入し開催することが肝であると収集した。
- ・宝塚NP0センター「シングルマザーハウス With」の訪問・収集を実施した。限られた委託料の中で若年層スタッフがフルタイムスタッフとして勤務するにあたり、今後の物価高の高騰を含めライフスタイルの変化による昇給といった人件費上昇を想定すると、委託料以外の資金調達が必要になることから調達方法の事例を収集した。金銭ではない現物支給の考え方を収集することが出来た。今後の中間支援業務を遂行する人財の雇用・生活保障の方向を考える機会となった。
- ・「八尾市芸術文化基本条例」制定及び「八尾市芸術文化振興審議会」及び「やおうえるかむコモンズ推進会議」に関する取組収集・共有を審議会委員から情報収集・情報共有を行った。

## 2.2. 「つどい」の管理運営業務

### 2.2.1. 管理運営の時間帯等

■開館日数 257日

■開館日時

平日（水曜日から金曜日）：10時～18時

土曜日・日曜日・祝日：10時～18時

■休館日

月曜日・火曜日

年末年始（12月29日から翌年1月3日までの6日間）

市長が特に必要と認める日

### 2.2.2. 管理運営業務の内容

#### (ア) 登録団体の募集・登録・廃止及び登録団体との連絡に関わる業務

令和5年3月末で274団体 +9（前年度：265団体）

登録団体：13団体、登録廃止：4団体

登録理由：八尾市市民活動支援基金事業助成金の申請により登録（4団体）

団体立上げによる登録（3団体）

つどいを知り登録（6団体）

登録廃止：活動休止、団体の解散

（団体名等は、「つどいホームページ」の「つどい登録団体紹介」を参照）

フルタイムスタッフへ登録申請対応の実施（業務内の権限移譲）

町会運営アプリ「結ネット」の試験導入検討及び導入断念（別団体発足で対応）



**(イ) メールボックスの利用団体の募集・受付・廃止及び貸出等の管理業務**

メールボックス利用団体数：13 団体 ▲29（前年度：42 団体）

※ 減少理由：郵便受け・情報交換の利用目的のみで継続をお願いしたため。

（利用時に提出する用紙が各団体情報を印字できるためボックスが不要になった）

メールボックス利用申請時に A3 用紙まで保管出来る引出の貸出を引き続き実施。

**(ウ) 会議室及び備品（印刷機、コピー機等）の貸出等の管理・保守業務**

■ 会議室の貸出等管理・保守業務

各会議室利用団体数

会議室（大）：205 団体 +73（前年度：132 団体）

印刷室：169 団体 +34（前年度：135 団体）

曜日別の利用状況

会議室（大）：水曜日＞木曜日＞土曜日＞日曜日＞金曜日

印刷室：水曜日＞土曜日＞木曜日＞金曜日＞日曜日

■ 備品の貸出等の管理・保守業務

各備品等利用団体数

印刷機：162 団体 +36（前年度：126 団体）

紙折り機：20 団体 ▲4（前年度：24 団体）

その他：79 団体 +23（前年度：56 団体）

※その他＝裁断機、ラミネーター、コピー機、パソコン

**(エ) 印刷機及びコピー機使用料の徴収・提出業務**

使用料徴収額 印刷機：¥71,175-（前年度：¥61,425-）

コピー機：¥1,750-（前年度：¥1,850-）

**(オ) 各団体のチラシ、ポスター等掲示物の受付・掲示業務**

郵便物・登録団体のチラシ・ポスター等持込み件数：646 件 +68（前年度：578 件）

館外配架物の配架部数：2,161 部 +19（前年度：2,142 件）

館外配架物の配架完了したチラシ・情報紙等：180 種 +81（前年度：99 種）

**(カ) 「つどい」の備品管理業務**

委託元よりノートパソコン1台納品（ノートパソコン1台廃棄）

**(キ) その他、「つどい」の管理運営のため必要な業務**

■ 来館者数

年間来館者数 2,756 人 +377（前年度：2,379 人）

月平均来館者数 229.67 人 +31.42（前年度：198.25 人）

曜日別の利用状況：水曜日＞木曜日＞金曜日＞土曜日＞日曜日

上記以外は、別冊資料編を参照

## 2.3. 組織体制

### ■ 業務遂行の体制

中間支援センターとしての業務の企画・実施・評価及び「つどい」管理・運営に支障のない組織体制を整えた。勤務体制は、シフトを組み1名以上の体制で常駐。

業務責任者

新福泰雅（下記の業務担当者も兼ねる）

業務担当者

管理担当：小林永遠・山下琴音（～2月）・鮫島彬寛（1月～）

事業担当：小林永遠・山下琴音（～2月）・寄川奈緒美（～2月）

鮫島彬寛（1月～）・宮下明莉（1月～）

連携担当：小林永遠 ※ 理事長 西田裕は、全体の監督

ボランティア

管理担当・事業担当：鮫島彬寛（10月～12月）、宮下明莉（10月～12月）

### ■ インターンシップ対応

- ・ NPO 法人ドットジェイピーからの依頼により、8月～9月に2名（中山涼華・渕木千茶）の学生を受け入れた。
- ・ 「市民活動」「市民主体のまちづくり」「中間支援」について、マンツーマンでレクチャーを行い、業務体験、市民活動団体の活動先の取材、ラジオ収録参加等を実施。
- ・ 「市民活動」「市民主体のまちづくり」「中間支援」の理解につながり、社会人になっても社会貢献の意識を持ってもらうように意識付けを行うため、「つどい学習座談会」を内部研修として参加をしてもらった。また公務員希望のインターンシップ生のために「公務員とお話会」を実施した。

## 2.4. 業務報告及び評価（マネジメントサイクル）

### ■ 行政評価・運営評価に関する必要資料作成・説明協力

- 行政評価・運営評価に関する必要資料作成・説明協力は、4件の対応を行った。

### ■ マネジメントサイクル

- 校区まちづくり協議会における活動支援については、仕様書2.における3目（対話の場の創出支援・多様な主体の連携支援・活動効果の検証支援）に分けてまとめている。
- 下表に「仕様書2.活動支援（3目）」と「仕様書（中間支援業務等）」の関係をまとめた。

「共創と共生の地域づくり」の推進		
★	まちづくり目標5「つながりを創り育て自分らしさを大切にしようまち」	
★	まちづくり目標6「みんなの力でともにつくる持続可能なまち」	
★	施策30「地域のまちづくり支援・市民活動の推進」	

対象者別の支援		仕様書 5. (1) 中間支援業務								7.業務報告及び評価		
		①		②				③		(1)	(2)	(3)
		ア	イ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ			
活動支援 まち協	1目：創出	▲		▲		▲	●	●	▲		▲	
	2目：連携	▲	●	▲		●		●	▲		▲	
	3目：検証	▲		▲	●	▲		▲	▲		▲	
活動支援 まち協 以外の協	個人及び事業者や大学等	●	●	▲	▲		●	●	▲			
	市民活動団体	●	●	▲		▲	●	●	▲		●	
	市関係部署及び関係団体	▲	▲	▲			▲	▲	▲			●

※5.(2)「つどい」の管理運営業務は除く。

**凡例**：仕様書2.「業務の趣旨 校区まちづくり協議会の活動支援（3目）」の項目

#### 1目：対話の場の創出支援

地域の課題解決や魅力向上に向けて、地域住民等が協力してアイデアを創出・実践する場として設立された校区まちづくり協議会に対して、だれでも参加できる開かれた場づくりを支援する。

#### 2目：多様な主体の連携支援

これまで地域のまちづくりに関わる機会が無かった市民や様々な知識やアイデア等を持つあらゆる主体が対話の場へ参加できるよう、校区まちづくり協議会が行う情報発信を支援するとともに、多様な主体による社会貢献活動の情報を提供する。

#### 3目：活動効果の検証支援

校区まちづくり協議会をはじめとする多様な主体が地域課題の解決のために実践した活動の効果を検証し、地域の活動全体を見渡した振り返りを支援する。

**凡例** ●：大いに関連がある  
▲：関連がある

**凡例**：仕様書5.「業務内容（1）中間支援業務」の項目

#### ①：情報収集・情報提供

①ア：多様な主体による社会貢献活動に関する情報収集

①イ：多様な主体による社会貢献活動に関する情報の提供

#### ②：社会貢献活動等の支援業務

②ア：社会貢献活動に関する相談

②イ：校区まちづくり協議会活動の効果検証支援

②ウ：社会貢献活動に係るスキルアップの支援

②エ：社会貢献活動への参加支援業務

#### ③：多様な主体による連携・協力促進業務

③ア：連携・協力のコーディネート

③イ：先進的な取組事例の収集

**凡例**：仕様書7.「業務報告及び評価（マネジメントサイクル）」の項目

(1)：業務実施報告書の作成・提出 (2)：アンケートの実施の現状把握及びコーディネートまたは支援後の状況把握

(3)：行政評価や運営評価実施の必要資料の作成や説明協力

# 「つどい」と「まち協」の協働整理シート①

記載例	校区まち協	協働相手			時期	協働の手法	概要	実施結果
		出張所等	まち協	その他				
		-	-	福祉	12月	ワークショップ支援	〇〇(株)がファシリテーターとして地区福祉委員会役員を対象としたワークショップを実施。各テーブルでのファシリテーターとスタッフ〇人で補助する	各役員が意見を述べただけでなく、主体的に地域の課題を解決に導く手法の検討にまで踏み込んだ。
その他	-	安中人コミ	-	-	6月-9月	オンライン研修	就労支援事業として定員3-4名の講座を第一金曜日14:00-15:30に開催。	参加者は女性3名。事前の知識は三者三様であったが、アンケートの結果から、満足感を得られて更にステップアップした次回を望む声も聞き取ることが出来た。
その他	-	コミ推情報発信推進部	-	-	6月	Twitter研修	コミ推情報発信推進部の取り組みであるまち協向けTwitter講座を実施。Twitterの特長から登録の仕方、基本操作等の講師役としてスタッフから2名が参加。	参加者は11名。参加者の所有している端末で行ったため、アンケートの登録時は事前の想定通り誤差があった。しかし、地域担当のコミスタとの連携や丁寧に進行を実施したこと、参加した全地域のまち協がアカウンターの作成と投稿を行う事が出来た。
9	八尾小学校校区まちづくり協議会	〇	〇	-	5月	Googleフォーム研修	役員会の前1時間でGoogleフォームを用いた意見収集と分析の効率化を提案してほしいとの依頼を受けてGoogleフォームの回答と作成の方法のレクチャーを実施。つどいから1名が講師役で参加。	事前のインターネット環境の調整不足と途中参加者が多かったことから参加者によって理解度がまばらとなった。
9	八尾小学校校区まちづくり協議会	〇	〇	-	12月	ワークショップ支援	幅広い年齢層が参加できる機会づくりを目的にワークショップを開催。ワークショップ開催までの準備段階から当日の進行までのサポートを実施。つどいから1名のスタッフが全体進行役と進行補助として参加。	参加者は22人。企画の進行をつどいが行い、各テーブルのファシリテーションは役員とコミスタが計5名で行った。地域での取り組みに馴染みの無い方が多かったが、各課題を生活している中で誰でも考えやすいものに設定したため、アンケートでも満足度が高いものになった。
11	高安小学校校区まちづくり協議会	〇	〇	-	9月	ワークショップ支援	わがまち推進計画の作成や活動内容(イベント)の精査、幅広い年齢層が参加できる機会づくりを目的にワークショップを開催予定。ワークショップ開催までの準備段階から当日の進行までのサポートを実施。つどいから2名のスタッフが全体進行役と進行補助として参加。	参加者は23人。全体の司会進行を事務局の方と分担しながら対応したのが1名。もう1名は各テーブルのファシリテーターとして各グループに配置されていたことで疑問解消も同時に行いながら積極的な話し合いを行うことが出来た。
14	高安西小学校校区まちづくり協議会	〇	〇	保健師	6月	ワークショップ支援	わがまち推進計画の作成にあたり、幅広い方からの意見収集と議論する上で話し合いの質の向上のためにワークショップを開催される。つどいから2名、ワークショップの進行と運営の補助として参加。また、紹介でグラフィックレコーディングを前回のワークショップでも請け負っていただいた方に依頼。	参加者は32人(内子ども3名)。打合せ通り、全体の司会進行の参加者も円滑に現場の進行を行うことが出来たこと、無事に充実した話し合いを行うことが出来たことをご報告いただいた。
14	高安西小学校校区まちづくり協議会	〇	〇	防災アドバイザー	9月	ワークショップ支援(事前のみ)	わがまち推進計画の作成にあたって防災アドバイザーの方をお呼びしたワークショップを開催した(9/18に開催)。主催者自身がワークショップを開催するためのノウハウの提供や自主性・主体性のさらなる向上を目的にワークショップ開催中における現地支援ではなく、事前に行う方へのアドバイザーと当日のプログラム作成の支援を実施。	参加者は32人(内子ども3名)。打合せ通り、全体の司会進行の参加者も円滑に現場の進行を行うことが出来たこと、無事に充実した話し合いを行うことが出来たことをご報告いただいた。
14	高安西小学校校区まちづくり協議会	〇	〇	-	1月(中止)	ワークショップ支援	来年度からの健康づくりにおける活動内容のリニューアルの為に幅広い方からの意見収集と議論する上で話し合いの質の向上のためにワークショップを開催される。保健師の方からのお話を聞いた後、実際にディスカッションを行うという流れを予定。つどいから1名ワークショップ開催までの準備段階から当日の進行までのサポートを実施予定であった。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、延期することになった。(来年度へ持ち越し)

## 「つどい」と「まち協」の協働整理シート②

No.	校区まち協	協働相手		時期	協働の手法	概要	実施結果
		出張所等	まち協 その他				
18	山本小学校区まちづくり協議会		○	7月	ワークショップ支援	意見の言いやすい環境づくりを取り組んでいくための最初の取り組みとしてワークショップを開催。ワークショップ開催までの準備段階から当日の進行までのサポートを実施。	新型コロナウイルス感染拡大の影響から参加人数が芳しくなかった(参加者3名)。そのため、集まっていた方にワークショップの内容のブラッシュアップとグラフィックレコーディングの体験を実施。作成したグラフィックレコーディングを今後のワークショップ開催に向けた説明用として活用いただけよう提供した。
20	高美小学校区まちづくり協議会		○	12月	小学生向けワークショップ支援	小学生にもまち協を知ってもらうため、わがまち推進計画の策定にあたり子どもたちの意見も収集するためにまちづくりワークショップを開催。小学6年生70人を対象に5:6時間目の総合の時間に実施予定。役員の方々が進行を子どもたちにも分かりやすくスムーズに執り行うための支援を実施。	1組33名、2組34名に向けて実施。全体の進行はやおお地域まちづくりアドバイザーの方が行い、まち協の方とともに各グループ1名ずつがファシリテーター補助として参加した。日頃から子ども達とのつながりがあった方がおられたこと、つどいの大学生スタッフがフラットに話し合いに参加したこともあり、小学生達もリラックスして意見の発表を行うことが出来ていた。
22	曙川小学校区まちづくり協議会		○	11月	ワークショップ支援	わがまち推進計画の作成にあたり、意見収集と議論する上での話し合いの質の向上のために役員向けのワークショップを開催される。ワークショップ開催までの準備段階から当日の進行までのサポートを実施。	参加者は11名。打合せ通り、全体の司会進行のみ担当し、目標の説明やまとめ等は会長と役割分担して行った。都塚北町会の2名に関しては今までの活動について知るところからのスタートであったため改善案をあげては行かなかったが、充実したディスカッションを実施することが出来た。
25	東山本小学校区まちづくり協議会		○	9月	Zoom操作のレクチャー	「東山本まち協ラウンドテーブル」で、Zoomを用いた対面とオンラインの併用開催のお試し体験を行いたいと考えておられ、操作方法に不安が残る相談にいられた(9/14(水)に開催)。当日に必要な操作を実際に行いながら説明、レクチャーを実施。	無事円滑に進めることができ、4名の方がオンラインで参加され、内1名は岡山県に引越されていた方ともつながることが出来たこと。次回からもオンラインで繋ぎながら開催していく予定であるとお声をいただくことが出来た。
25	東山本小学校区まちづくり協議会		○	11月	子どもたちへのインタビュアー補助	わがまち推進計画の作成にあたり、東山本小学校の児童会の子どもたちインタビューを実施予定。その際、より沢山の意見を収集し今後の活動に反映させるために子どもたちが意見を言いやすい雰囲気を作るための補助を実施。	児童会の9名が参加。児童会の会議の前半の45分の時間をいただき実施。打合せの通り、意見の収集や進行は学校長と役割分担で行い、まち協の概要や実施にあたって経緯その旨の説明はまち協の会長が行った。子どもたちからの率直な意見を拾うことが出来。まち協の説明も行うことが出来た。
25	東山本小学校区まちづくり協議会		○	12月	アンケート作成にあたってのレクチャー	アンケート作成にあたってのレクチャー	後日相談者からフォームでの回答が132件と予想の倍以上の件数があり大変助かったとご報告をいただくことが出来た。また今後アンケートを実施する際は2種類用意し、どちらでも回答できる体制を作っていくきたいという声もいただくことが出来た。

★校区まちづくり協議会以外の活動支援（一部まち協を含む）及び業務報告及び評価

まち協以外の活動支援（一部まち協を含む） 及び業務報告及び評価 【市民活動団体（NPO 法人、ボランティア団体等。「つどい」登録団体に限らない。）】	
項目	八尾市市民活動支援基金事業助成金団体への取材による現状把握及び情報提供の準備
Plan	上記助成金の応募先である委託元から、取材による訪問依頼があった。
	すでに2団体が行事開催完了もしくは入場制限により残り5団体を対象に取材交渉を行う。
Do	5団体中、3団体は行事開催時に取材を行い「つどいブログ」に掲載を実施。
	残り1団体は行事開催が中止になり取材を断念したが、他団体に出演することがわかり、その様子取材し「つどいブログ」に掲載を実施。
Check	行事開催時に上記助成金事業による実施であることが分かるアナウンスはなかった。
	ふるさと納税が財源であることや、上記助成金の趣旨が理解されていない様子が伺えた。
	上記助成金を取得しなくなっても、どのように資金調達出来るようになるかを確立できるように事業を実施することが周知徹底出来ていない。
Action	過去10年以上に及ぶ上記助成金に関する取材をまとめた記事をホームページ上に集約し、上記助成金の趣旨・目的の理解を深められるために、情報提供の改善を図った。
	資金調達の方法をまとめ、ホームページ上に掲載し、情報提供の改善を行った。
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去10年以上に及び上記助成金に関する取材経験と、今回の助成金団体への取材による現状を把握することにより、必要とする情報をまとめ提供する体制が出来た。</li> <li>・ 次年度に相談があった際に、下記の団体を対象に提供できる準備が出来た。 <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 今年度上記助成金事業を行った団体：報告書作成における相談時に対応。</li> <li>★ 次年度上記助成金に応募する団体：申請における相談時に対応。</li> </ul> </li> </ul>

まち協以外の活動支援 【市民活動団体（NPO 法人、ボランティア団体等。「つどい」登録団体に限らない。）】	
項目	つどい登録団体と八尾図書館との橋渡し役（活動記録冊子・情報紙を地域郷土資料として提供）
Plan	開設から 18 年半の間に 455 団体の市民活動団体が登録（今年度末の団体数・廃止団体数含む）。
	登録申請時及び活動時に、10 周年記念誌といった活動記録冊子や情報紙を提供いただき、各登録団体申請書と同じ場所に永年保管をしていた。保管した記念誌や情報紙は、問合せ対応時に団体紹介としても保管しているが使用頻度がない。
	市民活動団体は草の根活動で記録が残りにくい。つどいでは閲覧することも可能だが市民に目が触れにくいいため、閲覧を提供するところまで手が伸ばせていない。
	455 団体が登録したが内 274 団体が現在も登録され、内 181 団体が解散や活動休止等により廃止しており、今後、解散や活動休止した団体の活動記録の収集し、地域郷土資料として記録に残す。
	公共の場で人の目に触れる機会が多い八尾図書館に地域郷土資料として「つどい」が窓口となり、市民活動団体の記録を受付・収集を行う。「つどい」が橋渡し役として年 1 回以上提供する。
Do	八尾図書館が地域郷土資料として市民活動団体の記念誌や情報紙を保管していることを知り、5 年程前に一度、「つどい」で保管していた記念誌や情報紙を試験的に提供した。
	今年度も、数年ぶりに収集を再開したい旨をお聴きしたため、再開する準備として、記念誌や情報紙を取りまとめた。
	「つどい」に問合せいただき、該当する活動記録や情報紙は八尾図書館に保管・閲覧と提供することを Facebook・つどいブログにて情報発信を行った。
Check	インターネット「八尾市立図書館ホームページ」の蔵書検索でキーワードとして「市民活動」で検索すると地域郷土資料が保管・閲覧書籍が、誰でもが把握でき、閲覧する機会が増える。
	今後、「つどい」に団体紹介でさらに詳しい情報について問合せがあった場合に、ホームページの有無の情報提供に加え、「八尾市立図書館ホームページ」の蔵書検索で保管情報を確認し八尾図書館へご案内することが出来る。
	受付・収集し、八尾図書館へ提供し、地域資料コーナーにて閲覧できる仕組みが確立出来た。
	誰でも蔵書検索で調べ、閲覧することが出来、郷土資料として人目に触れる機会が仕組みとして確立出来た。次世代が市民活動を始める際の参考資料として地域資料コーナーで閲覧できる仕組みが出来た。
	消えやすい市民活動の記録を地域郷土資料として残す仕組みが出来た。
Action	市民活動団体の記録を「つどい」が受付・収集し、八尾図書館で保管・閲覧できることを、今後も情報提供を継続していくことが必要。認識してもらい知ってもらうように実施していく。
	先人たちが行って来た市民活動の解説が出来る体制が必要。同じ取組み・失敗を無くす教訓として閲覧する視点を提供し、より良い公益を生み出せる市民活動に寄与できる情報提供が必要。
達成状況	記録化の確立と公共の場で保管・閲覧が確立し、郷土資料として蓄積し今後の市民活動を始める参考資料として活用できる可能性が広がった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受付・収集・提供・閲覧・保管が八尾図書館との連携により仕組みが構築した。</li> <li>・ 蔵書検索で誰でもが調べ、閲覧できる仕組みを活用し、人目に触れる機会を提供出来た。</li> <li>・ 消える活動記録を残すことが出来た、今後の市民活動を始める際に先人たちの活動を参考に、より良い公益性を見出せる活動がスタート出来る情報提供体制が確立出来た。</li> </ul>

まち協以外の活動支援			
【その他支援が必要な個人及び団体】			
項目	情報提供等によるつながりづくり・コーディネート の啓発（協働・連携・公益性の活性化）		
	行事開催時の情報提供支援	歴史のある地域資源の提供	ウクライナ支援の呼掛け提供
Plan	つどいでは「必要な方に必要な情報を」というコンセプトの基、「情報発信から情報提供へ」をキャッチフレーズに意識付けて情報提供に努めて来た。		
	情報提供が行き届いていないことで、地域資源等が留まり、活用が出来ていない点が見受けられ、提供する必要がある。		
Do	情報提供が信頼性を持ち、つながりづくりやコーディネートが公益を生み出す支援につながることを啓発する必要性を感じている。		
	「和ろうそくは、つなぐ」お話を開催することを知り、お話会で提供する書籍を収集すると、写真によるビジュアル重視のため、和ろうそくが出来るまでのプロセス・過程のつながりがわかりにくいいため、図解で資料を作成した。	取材時に展示されていた写真被写体である建築物及びまちなみは現存されておらず、当時の様子がわかる貴重な地域資源である。しかし貴重な地域資源であると感じたのは、被写体の建築物所有者が当時の写真を所有していないと仮説を立てたからである。	ウクライナは戦争により暖房設備が破壊され極寒による凍死する事案があり、八尾市に所在する「日本ウクライナ交流文化協会」が使い捨てカイロの寄贈の呼掛けをされていたが、全国で広がる中、八尾市内では広がりがなかったため呼掛けによる情報提供を行った。
Check	蠟の原料であるハゼの実と藍栽培と発酵及び藍染の関係、和ろうそくの芯と墨作りの関係、それらに関する真綿について順序立てて図解で明らかにした。	所有者である大信寺及び光専寺の両寺院に情報提供を行い、共に写真等の記録がないことが分った。取材先の企画・運営者に展示写真の提供を交渉し了解を得たことで、両寺院に展示写真を提供。	戦争が長引き、避難所建設費用の寄附の呼掛けも情報提供する中で、市民活動団体が行事開催時に寄附を募りたいと相談があり、人的不足をつどいが呼掛けを行い補う支援を行った。
	行事開催時に図解資料を参加者に配付した事により、書籍提供が促進され、より和ろうそくが様々な日本のものづくり文化・歴史をつないでいることを啓発することにつながった。	これまであまりつながりがなかった大信寺との関係性が情報提供により信頼が深まり、関連する問合せにも対応出来た。AIを活用したカラー化技術がパソコン操作で容易に行えることを情報提供いただき、より信頼が深められた。	使い捨てカイロの寄贈の呼掛けを寺院・町会・団体に呼掛けを実施。寄贈を検討いただいたが、自ら行うまで出来ないことから寄附を実施された。また、久宝寺中学校が使い捨てカイロの寄贈が行われたことを知り、八尾でも広がっていることを知った。
Action	情報提供元と情報提供先の2者を情報や物品（展示写真）を提供したこれら事例により、情報提供が行き届いていないことを当事者で実感していただき、留まっていた日本の伝統あるものづくりの情報、八尾の歴史的資源の情報を提供することが出来た。		
	これら事例をつどいブログ等で情報発信することで、つながりづくり・コーディネートの必要性を提供することが出来た。		
達成状況	第三者が中間支援として情報提供を行い、コーディネート支援を通じて、協働・連携や公益性を生み出す相乗効果や活性化につながることが出来た。		
	項目「行事開催時の情報提供支援」及び「歴史のある地域資源の提供」は、情報提供が不足していることによる「支援型」の事例であり、項目「ウクライナ支援の呼掛け提供」は人的不足を補い活動が成立した「補完型」の事例であった。各事業・活動をつなぎ合わせる「統合型」の支援事例を次年度、支援を行い事例構築につなげるよう意識を行う。		
達成状況	八尾に住む・働く・学ぶすべての人・主体がつながりづくり・コーディネートを意識することの必要性について、事例を交えて情報発信することが出来た。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報提供すべき内容を見出し、提供することで、つながり、結びつけることが出来る事例を構築することが出来た。</li> <li>事例を情報発信することで、「つどい」以外にもつなげ・コーディネートを実践される個人や活動主体が、つなげ、コーディネートにチャレンジ出来る機会に寄与することが出来る。</li> <li>今後の相談対応時等に事例として情報提供を行う準備が出来たことで、今後、つなげ、コーディネートにチャレンジする方を対象に支援することが出来る。</li> </ul>		



## 2.5. 「つどい」を介して連携につながった相談対応等

今年度、相談対応後にマッチングした40件ならびに他の中間支援業務を通じて連携につながった件数(14件)を下表に各活動主体別等にまとめた。また、紹介先は8件が市民活動団体であり、残り6件の内、2件は地域活動団体、2件は市民活動を行う個人、1件は行政、1件は公共施設である。

- ※ マッチング：相談内容から「つどい」が「相談者」に団体や個人の連絡先等を紹介(以下、「紹介者」)し、その後、紹介者が相談者からの相談内容に応じてくれた場合とする。また、紹介者として「つどい」も含まれる。
- ※ 連携：マッチング後も、再度、同じもしくは同じような相談内容に紹介者が応じた場合をいう。また、マッチング後も、参画を継続して活動を行っているもしくは活動に定着化した相談内容も含む。連携には、紹介者としての「つどい」は含めない。相談者へ紹介した紹介団体が携わる事で相談案件が解決するような単発的な取り組みは、連携には該当しない。また、相談業務以外でも今後も連携の可能性のあるものは、連携にカウントする場合がある。

### ●市民

- ・ 相談 No. 2022-033・No.2022-052・No.2022-078

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
8/13	マッチング内容	ウクレレを行う団体を3件の相談対応で紹介を行い、ウクレレを行う活動(ウクレレ・ハウス)に初めて参加をされた。
	連携が出来た及び出来なかった理由	つどい登録団体「ウクレレ・ハウス」は、昨年度の相談(No. 2021-030)で地域活動の行事に出演し、これまでも各種行事に出演し連携している。連携をされている「ウクレレ・ハウス」の活動に、「つどい」を介して市民が参画する機会を提供している。今後も、地域活動や市民活動の行事に出演される人財提供として、連携が継続できる支援にもつながっており、連携の仕組みが出来ている。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	3名の活動資源が集まった。 (活動参画の機会につなげることを意識して、ウクレレ演奏が出来るための時間の提供)

### ●市民活動団体

- ・ 相談 No. 2022-119

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
8/13	マッチング内容	ウクライナ支援として避難所建設費用の寄附を行事開催時に募るにあたり、寄附先は八尾市に所在する「日本ウクライナ文化交流協会」であることを紹介。紹介先も寄附や避難民の支援対応で人手がないことから、つどいで寄附の呼びかけと寄附金対応内容について提示し支援を行った。行事開催の最後に寄附の呼びかけと寄附金の受付対応をつどいが介して支援。結果、寄附金を賜り、終了後に寄附金の送金を完了した。 (P50のNo.14も関連)
	連携が出来た及び出来なかった理由	1月に「つどい」から使い捨てカイロの寄贈の呼掛けを情報提供した際、何か出来る事はないかと思い、寄附を呼びかける機会となった。協力・連携につながった(つどいが橋渡し役で連携支援)。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体と寄附者の活動資源が集まった。 (八尾市所在団体が避難民に寄贈や寄附の支援を行う情報の提供と寄附を呼びかける場を提供と寄附者からの寄附金という金銭の提供)

●地域活動団体

・ 相談 No. 2022-067

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
10/1	マッチング内容	つどい登録団体「八尾市ディスコン協会」の開示情報をお伝えした。 紹介者から育成会の講座講師として受託されることが決まったとご報告があった。 紹介者からは八尾市にディスコンを初めて普及した活動先が八尾小であった事もあり、またつながりが出来たことをとても喜んでいるともお伝えいただいた。
	連携が出来た及び出来なかった理由	2013年度～2014年度にかけて、八尾市教育委員会が土曜日の総合学習として「チャレンジキッズ」として、八尾小学校と安中小学校の両3年生を対象に成法中学校に登校し様々な総合学習を体験。当時、成法中学校での総合学習のカリキュラムとして、つどい登録団体「八尾マジッククラブ」と「八尾市ディスコン協会」を紹介。両小学生と保護者を通じて八尾市内におけるディスコンの普及に貢献し、今回の相談対応を機会に再び連携が始まった。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (ディスコンのノウハウ提供)

●行政

・ 相談 No. 2022-072

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
10/26	マッチング内容	「つどい井戸端会議」で町会運営アプリ「結ネット」の話題提供を機会に、参加者が「結ネット」を活用している高美町五丁目町会の岡村氏と対面による学習を希望され、11月11日に実施した。
	連携が出来た及び出来なかった理由	対面による学習を実施した後、東山本小まち協・西山小まち協・南高安小まち協の3協議会で集い、「結ネット」の学習会を相談者が企画し開催。1月と2月と継続開催しており、連携が始まった。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	3団体の活動資源が集まった。 (電子での伝達方法による伝達ツールの提供)

●事業者

- 相談 No.2022-018・No.2022-080

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
2/15	マッチング内容	相談 No. 2022-018 での相談対応を機に5月に「モデルロケット体験会」の支援と取材を行った。以後、八尾の恩智で栽培された枝豆で廃棄された茎や葉を使ったバイオプラスチック素材をモデルロケットとして出来上がった。そのこともあり、八尾市立リサイクルセンター学習プラザ「めぐる」を紹介、顔合せを実施。
	連携が出来た及び出来なかった理由	「めぐる」の体験行事の企画を考えていたことから、「つどい」を介して紹介・顔合せを機会にモデルロケット体験会を企画し(株)MIRAI と連携して実施する運びとなった。また「めぐる」内に貴社の展示スペースも新設され 3D プリンタを設置するなど連携が深まっている。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (体験会実施及び展示スペース新設による時間提供・物品提供・ノウハウ提供)

●教育機関

- 相談 No. 2022-086

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
2/2	マッチング内容	野外活動(校外での現地活動)や出前講座における対応できる団体を紹介した内、「河内の戦争遺跡を語る会」が、1月31日の5時間目に6年生対象の外部講師として出前授業を実施した。
	連携が出来た及び出来なかった理由	「河内の戦争遺跡を語る会」は、市民活動支援基金事業助成金事業で大正飛行場(現在の八尾空港)における戦争の痕跡・遺跡をパンフレットにまとめたことをきっかけに、相談件数が増え、これまでに相談の都度、報道機関や教育機関、生徒の自由研究等でご紹介を行って来た。今年度、2年振りに相談があり、小学校への出前授業につながり、教育機関との連携を再開したことで、連携の継続として記載する。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (授業での時間の提供とノウハウ提供)

- 相談 No. 2022-090 (No.2022-097・No.2022-100)

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
12/28	マッチング内容	つどい登録団体「八尾の助産師の会」を紹介し、これまでに「いのちの授業」として行われていることをお伝えした。 2月10日に2年生対象に「いのちの授業」を行うことになり、2月の中旬に出前授業を行うことが出来たことがわかり、引き続き、連携が継続されている。
	連携が出来た及び出来なかった理由	相談 No. 2022-100 でも同様の相談内容があり出前授業を行う段取りであることから、継続されて連携されている。また相談 No. 2022-097 は事業者ではあるが放課後デイでも「いのちの授業」が実施されており、昨年度に引き続き、今年度も新しく広がりを見せている。連携が継続・定着されている。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (授業での時間の提供とノウハウ提供)

●昨年度の相談業務による連携（事業者）

- 相談 No.2021-060

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
10/1	マッチング内容	相談No.2021-047の対応を同様に、子どもの健全育成に該当する団体や女性が活躍している団体等につどいから情報提供することを提案。 説明会の開催及びボランティアサポーターの募集を「つどいブログ」と「Facebook」で広報を行った結果、計5名が参加された。対応者とインターンシップ生(1名)も説明会に参加した。
	連携が出来た及び出来なかった理由	「ジュニアエコノミーカレッジ(ジュニエコ)」を2年振りに開催にあたり、主催者だけの運営からサポーターとして市民ボランティアを募った結果、つどい紹介からは、2名が継続されたことで当日6回に及ぶ開催時に携わってもらい貢献した。来年度も、1名継続が決まっていることもあり、連携の定着を確認することが出来た。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	2名の活動資源が集まった。 (6回に及ぶ開催時におけるボランティアのサポートによる時間提供と子どものサポート等のノウハウの提供)

- 相談 No.2021-068

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
11/9	マッチング内容	対応者が訪問して改めて拝見し、利活用（ユニフォームやパッチワーク材料等）を考えるとお伝えした。また、衣服の一部を「つどい」で提供いただき、団体へ打診することもご提案した。 「つどいの広場 いとぐるま」の運営団体に情報提供し、11/9に相談者側の担当者とお会いし、衣服を提供することになった。
	連携が出来た及び出来なかった理由	衣服は東大阪市の団体が定期的に引取り、活用することもあり、独自に連携を始めている。 衣服以外でも、子ども食堂の支援としてお米の提供もあり、「つどいの広場 いとぐるま」の運営団体を通じて、各つどいの広場に行き渡り、連携を定着した。
	連携の効果・結果（地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる）	1 団体の活動資源が集まった。 （お米の物品提供と子どもを囲んだ食事の場の提供）

●相談業務以外での連携

- 人権コミュニティセンターでの就労支援事業の連携

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
7/1	マッチング内容	安中人権コミュニティセンターでの就労支援事業として、Zoomの操作を教える講師として、依頼があった。つどいスタッフと共にZoomの操作を教えることができる学生団体「はちのじ」と共に講師を派遣し、連続講座として実施した。
	連携が出来た及び出来なかった理由	前年度に続けて、行政機関・公共施設でのスキルアップ支援として継続して連携をしている。
	連携の効果・結果（地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる）	2 団体の活動資源が集まった。 （講座での講師による時間提供とノウハウ提供）

- 「つどい井戸端会議」の開催による連携の実施

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
12/23	マッチング内容	引越し・産休・育児休暇で孤独になりがちだったが、つどい井戸端会議に久々に参加。つどい井戸端会議の参加者から地域での防災活動を紹介され、校区まちづくり協議会に参画するようになった。地域社会とつなげてもらい、非常に助かった。
	連携が出来た及び出来なかった理由	相談 No. 2022-027 で「防災リーダー養成講習」の主催者から参加者の相談を受け、上記を紹介し参加。9月30日に、市民主体のまちづくりにおける現状と課題について情報を求められたため提供。 つどい井戸端会議では、他の小学校区の校区まちづくり協議会の防災リーダーを通じてつながり、校区まちづくり協議会に参画する。 産休・育児休暇と孤独になりがちなか中、支援を通じて一歩一歩自ら、参画・連携を図られた。
	連携の効果・結果（地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる）	2 団体の活動資源が集まった。 （防災活動への参画といった時間の提供と参画出来る情報の提供）

- 八尾市施設行事における近隣広報先の紹介と連携の実施

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
1/27	マッチング内容	高美町5丁目町会では、町会運営アプリ「結ネット」を使い電子回覧を町会加入者全世帯に導入。八尾市立リサイクルセンター学習プラザ「めぐる」が直営になり新たに行事開催の広報先を必要としていた。「つどい」を介して、「めぐる」の近隣でもある高美町5丁目町会長を紹介し顔合せを行った。町会の回覧内容として子育て世帯対象の行事案内を提供したい考えもあり、双方の考えがマッチし行事案内を電子回覧で行うことになった。
	連携が出来た及び出来なかった理由	「めぐる」の体験行事の案内を電子回覧したことで、既読数が普段の回覧内容よりも高かったことから、継続的に広報先として引き続き連携を図ることになった。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (電子回覧による伝達ツールの提供・広報先の提供)

- 「和ろうそくは、つなぐ」図解資料の作成及び提供により開催活性化と展示による連携開始

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
11/27	マッチング内容	11月につどい登録団体「八尾の絵の本ひろば広げよ会」が「和ろうそくは、つなぐ」お話を開催する際にご案内と書籍を提供いただき、和ろうそくが出来る過程が分かる図解資料を作成し提供。開催当日、「つどい」を介して配付及び趣旨を説明し、共感が深まり書籍を手にとられる方も多くあり、開催が活性化した。
3/30	連携が出来た及び出来なかった理由	龍華図書館で「和ろうそくは、つなぐ」の図解資料の配架も機会に、プリズムホールも1階オープンスペースへの出展提案をいただく。「つどい」を介して公共施設にも「和ろうそくは、つなぐ」が展示され、目に触れる機会、連携が広がった。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	1団体の活動資源が集まった。 (公共施設で展示する企画実現の場の提供)

- 校区まちづくり協議会主催行事の連携の開始

日付・期間	連携・協力の状況・経過	アフターフォロー記録
3/19	マッチング内容	子ども向けのイベントの企画運営において、校区まちづくり協議会だけで行うには限界があることから、若年層の参画を考えているがつながり方がわからないことから、「つどい」を介してつどい登録団体から「学生団体はちのじ」「ひまわり少年団」とイラスト・デザインを行う個人及び主催者・コミュニティ推進スタッフと顔合せ・連絡先交換を実施(スタンプラリー開催時)。7月に開催予定の「サマーフェスタ(仮名称)」への企画運営から参加・協働を見据えたつながりを形成。
	連携が出来た及び出来なかった理由	顔合せの実施と行事の企画運営に向けて連携を開始した。
	連携の効果・結果(地域活性化につながるアイデア創出・活動資源が集まる)	3団体・1個人の活動資源が集まった。 (子ども向けのイベントを企画・運営といったノウハウ提供)

## 2・6. 成果及び課題と改善点

### ■ 中間支援業務における成果及び課題と改善点

- ・ 長年の情報収集の蓄積やネットワークの蓄積から、つどいブログ・SNSの広報支援による情報発信の件数（昨年度 51 件→今年度 97 件）及び個別対応での情報提供の件数（昨年度 9 件→今年度 17 件）が 2 倍近くに増加した。
- ・ スキルアップの支援は、校区まちづくり協議会における「わがまち推進計画」の策定時期と合わさってワークショップの実施が増え、ワークショップの開催補助や開催手法などの支援を通じて、件数が 4.5 倍に増加した（昨年度 4 件→今年度 18 件）。
- ・ スキルアップ支援を通じて、校区まちづくり協議会及びコミュニティ推進スタッフと「つどい」が連携して協働する機会が大きくなった。「わがまち推進計画」の策定に貢献することが出来た。
- ・ 連携・協働のコーディネートにおいては、西山本小学校校区まちづくり協議会の依頼により、若年層が構成する市民活動団体等の紹介・顔合せを行い、今後の行事開催に向けて参加・協働による連携が予定されている。スキルアップ支援等を通じて連携・協働のコーディネートまで協働が発展している。
- ・ 校区まちづくり協議会活動の効果検証については、今年度は高安西小学校校区まちづくり協議会における活動支援の検証を簡単ではあるがまとめた。先進的な取り組み事例の収集において吹田市立市民公益活動センター「ラコルタ」で開催された「ムリなく楽しくネットワーク型地域活動のススメ」で収集した情報を参考にする。検証内容の主としては、ワークショップ形式を取入れて支援したことで、「対話の場」づくりにどのような効果や課題があったか（階層型組織からネットワーク型への意識の変化や移行）。加えて校区まちづくり協議会が「わがまち推進計画」の策定にあたってワークショップの実施がどのような効果や課題があったかを今後どこまで検証出来るか取組みながら、検証する仕組みを整えることが今後の課題と改善点である。また検証を通じて、これから必要となる支援も見つけ出す機会になればと考えている。
- ・ 参加支援業務は、中環の森での活動が落ち着き、保護者・子どもの参加が難しい中、今後の活動・実施体制の検討が必要である。交流会は、山本コミセンラウンドテーブルでの情報共有が定着をし始めている。つどい井戸端会議は、自由な対話形式の基、市民主体のまちづくりに向けての意識付けを行いながら、参加者のひとりが校区まちづくり協議会への参画につながり、つどい井戸端会議の参加者も紹介等で助けていただいた。
- ・ 先進的な取り組み事例の収集において、八尾市芸術文化振興審議会及び「やおうえるかむ commons 推進会議」の状況に応じて、プリズムホール等やつどい登録団体「茶吉庵プロジェクト」との支援・連携などを視野に入れる必要がある。

#### ■ 「つどい」の管理運營業務における成果及び課題と改善点

- ・ 八尾市市民活動支援基金事業助成金への申請、団体立上げ、つどいを知り登録に来られたと言う理由により、登録団体数が増加した。
- ・ 利用状況は100件以上ある部屋利用や設備利用は軒並み前年度比約25%~55%の増加になった。来館者数は、前年度比約15%の増加になった。コロナ禍3年目であるが、活動再開の兆しも見え、利用状況の減少は底を突き始め、上昇傾向の1年となった。
- ・ チラシ、ポスター等の掲示物の受付・掲示、配架にあたっては、受付件数は前年度比約11%の増加となり、館外配架は横ばいではあるが2,100部以上を年間で配架することが出来た。受付時に配架出来なかったチラシは、先方に送付部数を減らしてもらったことにより、館外配架物の配架が完了した種類は、前年度比81種類増加することが出来た。
- ・ 館外配架物の配架は、アナログ媒体での情報発信として定着化している。
- ・ 今後、興味のない方にも閲覧いただく広報の方法や、広報先の拡大を行うことが、情報発信・情報提供において重要になって来ると思われる。

#### ■ 組織体制の成果及び課題と改善点

- ・ 主軸を担う若年層のフルタイムスタッフが、今年2月で丸4年間勤務を遂行し、校区まちづくり協議会やコミュニティ推進スタッフとの連携や、学生スタッフと共にワークショップの開催支援等により、大きく貢献することが出来た。「つどい」の主軸を担うまでに成長と成果を出している。
- ・ 学生スタッフ（アルバイト）は、2月で就職準備と大学卒業により退職。滞りなく次の学生スタッフを紹介してもらい、新たに2名の学生スタッフを雇入れしつなげてもらえた。
- ・ 最低賃金の改定によりアルバイト賃金の増額対応及び物価高騰によるフルタイムスタッフの賃金の見直しを行った。フルタイムスタッフにおいては、プロポーザル提案よりも半年前倒しで賃金増額を行い、生活に不安のない雇用体制で引き続き対応が出来た。
- ・ 現在のフルタイムスタッフが勤務を継続し、さらにもう1名のフルタイムスタッフを確保することが出来、雇用につながれば、「つどい」の運営は、かつてないほどの基盤のある体制が確立出来る。人財を確保し、雇用が出来るように人財を探し出し定着化することが課題である。
- ・ つどい業務責任者は、市民活動・地域活動に取り組む団体の中で先陣を切って世代交代を謳い、人財確保と人件費及び権限の移譲を実施し続けた。今後も、脇役として遂行しながら、これまでの関係団体とのつながりを維持・支援を継続しつつ、つどい業務責任者にしかできない業務・支援は引き続き行い、サポートに徹する。次の業務責任者までつなげる。
- ・ インターンシップ対応により、「市民活動」「市民主体のまちづくり」「中間支援」をお伝えする情報を整理出来た。ある程度の体系化も出来た。今後は、活用をしながら、内部研修や外部への情報提供にも活用をして行く。
- ・ 先進的な取り組み事例の収集においては、宝塚NPOセンター「シングルマザーハウスwith」を訪問した。業務委託料の予算増額が難しい中、中間支援を主に生計を立てられるよう雇用の確保が必要である。前述の通り、若年層の人財及び雇用の確保と共に人件費を移譲して来た。しかし、今後のフルタイムスタッフのライフスタイルの変化に伴う昇給分の資金調達は、現在の業務委託料での人件費の配分・移譲を行い賄うには限界に来ている。予算要望以外の方法として、資金調達ではなく現物支給として住まいを無償提供するなど、来



- 期委託契約完了後までには、具体的に取り組めるよう中長期で展望を計画する必要がある。
- ・ 中間支援の人財が不在になると、どのような社会問題や地域課題が発生するか明確にし、中間支援の人財が存在することで、地域社会にどのような公益が生み出されるのかを明確にして行く必要がある。

#### ■ マネジメントサイクルからの成果及び課題と改善点

##### ● 過去の蓄積・アーカイブスの活用

- ・ 市民活動支援基金事業助成金に関する情報提供は、助成金団体への取材による現状を把握することにより、趣旨・目的の理解を深めるために必要な情報をまとめ提供する体制が出来た（過去10年以上に及ぶ上記助成金に関する取材をまとめた記事や資金調達の方法をホームページ上に集約）。郵送・メールでの情報提供が定着し、市民活動支援基金事業助成金の募集案内が円滑に情報提供を行うことが出来るようになった。
  - ・ 市民活動団体の活動記録を八尾図書館の地域郷土資料として保管・閲覧するために「つどい」が橋渡し役を行う準備・体制が出来た。「八尾市立図書館ホームページ」の蔵書検索で保管場所を確認し八尾図書館で閲覧できる仕組みは基から備わっており、その紹介や案内を行えるところまで進めることが出来た。地域郷土資料として人目に触れる機会につながり、消えやすい市民活動の記録を残すことが出来る。先人たちの活動を参考に、より良い公益性を見出せる市民活動がスタートできる情報提供体制を確立することが出来た。
- ##### ● 中間支援の必要性・啓発（公益を生み出す支援である情報提供とコーディネート）
- ・ 情報提供元と情報提供先の2者を情報や物品を提供した事例を生み出したことで、つなぎ役・コーディネート役の必要性・社会的意義の啓発を行えた。
  - ・ 情報面の不足を支援する「支援型」の事例、人的不足を補い寄附の呼掛け等を完全に実施することが出来た「補完型」の事例が出来た。課題として目に見えないつながりづくりを、もっと分かりやすくし、中間支援の必要性や社会的意義を伝えるための工夫が必要である。
  - ・ 「つどい」以外でも、地域資源を情報収集・把握することにより、誰でもが協働等のコーディネートが出来、公益を生み出す新たなアプローチとして今後も啓発を行いたい。

■ 「つどい」を介して連携を通じた地域資源（成果及び課題と改善点）

14 件の連携を活動資源の要素別にて集約（複数該当・下表参照）した上で、成果及び課題と改善点をまとめる。

- ・ 連携時に提供いただいた内容が、時間提供 14 件中 7 件だった。昨年度よりも件数が減少している。
- ・ 金銭提供は寄附を募った寄附金が 1 件あった。資金調達の連携案件・事例を構築したい。
- ・ 物品の提供は 14 件中 2 件であり、講座・体験会開催へ向けた際の物品提供と子どもの貧困対策としての物品提供であった。
- ・ 場の提供は 14 件中 2 件であり、主催行事にて寄附を募る場の提供と、出展による展示の場の提供であった。
- ・ その他は 14 件中 12 件（複数該当含む）を占め、件数を伸ばした。ノウハウ提供が 7 件と最も多く、情報の提供が 2 件、伝達ツールの提供が 2 件、広報先の提供が 1 件だった。市民活動団体が従来から持っているノウハウ提供（ディスコンの提供、八尾空港における戦争遺跡と平和啓発の授業の提供、助産師の専門性を活かした授業の提供）に加え、引き続き、若年層が多く構成している市民活動団体による Zoom の操作方法・使い方の提供や、子ども達と携わる機会が多い若年層が多く構成する団体による行事体験など経験の提供であった。伝達ツールの提供は、町会運営アプリ「結ネット」による電子回覧等の伝達ツールの提供であった。それを活用した町会へ電子回覧の依頼による広報先の提供にもつながった。
- ・ 引き続き、どのような活動資源を求め提供すれば良いかを提供別で整理を行いたい。

相談 No. 等		提供内容・提供方法					
		時間	金銭	物品	場所	その他（左記以外）	
						内容	
今年度	No. 2022-033・No.2022-052・No.2022-078	●					
	No. 2022-119		●		●	●	情報の提供
	No. 2022-067					●	ノウハウ提供
	No. 2022-072					●	伝達ツールの提供
	No. 2022-018・No.2022-080	●		●		●	ノウハウ提供
	No. 2022-086	●				●	ノウハウ提供
	No. 2022-090 (No.2022-097・No.2022-100)	●				●	ノウハウ提供
昨年度	No.2021-060	●				●	ノウハウ提供
	No.2021-068			●			
今年度	就労支援事業の連携	●				●	ノウハウ提供
	井戸端会議開催による連携	●				●	情報の提供
	市施設行事の広報先紹介・連携					● ●	伝達ツールの提供 広報先の提供
	図解資料提供・展示の連携開始				●		
	まち協主催行事の連携の開始					●	ノウハウ提供
合計		7	1	2	2	12	

- 全体の課題（連携開始を促進し、地域活性化または活動資源の促進に向けて）
- 対話の場の創出と未来を育む取組みに寄与  
（つどい自身が校区まちづくり協議会等への連携を促進）
  - ・ 「共創と共生の地域づくり」へ向けて、校区まちづくり協議会是对話の場を提供する役割があり、今年度は「わがまち推進計画」の策定期間にあたり、ワークショップの実施が盛んに行われた。
  - ・ ワークショップの開催や手法は、これまでの地域活動における「階層型組織」から、誰でもが対話に参加・参画が出来る「ネットワーク型」へ移行する有効な方法であると先進的な取り組み事例で収集して来た。言葉を言い換えるとこれまで限られた地域コミュニティによる「地域活動」から、目的・趣旨に賛同する方なら誰でもが参画できる「地域のまちづくり」に変化や意識付けが出来たかである。「共創と共生の地域づくり」につながったかである。
  - ・ つどいが、校区まちづくり協議会へのワークショップに関する支援を9件携わり、結果、対等に対話や意見交換が出来る場の創出に貢献することが出来た。その関連で「わがまち推進計画」の策定にも寄与することが出来た。若年層スタッフが中年層・高齢層をつなげた結果である。
  - ・ 今後、支援を通じてどのような変化や意識付けが出来たのかを検証し、検証の仕組みを整える機会を設けることが今後の課題と改善点である。今後、必要となる支援も見つけ出す機会になればと考えている。検証を通じて、校区まちづくり協議会が行う支援方法（総合型・補完型・支援型）づくりにも寄与して行きたい。
- 蓄積した情報の有効活用（過去のアーカイブスの活用）
  - ・ 八尾市市民活動支援基金事業助成金の取材等で蓄積した情報を集約し、情報提供を充実することが出来た。収集・蓄積して来た市民活動団体の活動記録を八尾市立図書館の地域郷土資料へ保管・閲覧化の試験実施から本格的な実施へ移行するところまで進んだ。
  - ・ 今後も人財発掘同様に、八尾の地域社会に埋もれた情報発掘を行い、情報等を求めている市民や多様な活動主体に情報提供を行い、市民活動・地域活動の推進及び寄与に努めて行く。
- 情報の集約と双方の情報活用が出来る広報・情報提供の仕組みづくり
  - ・ 町会運営アプリ「結ネット」が電子回覧を行う事が出来、今年度はこの有効性に着目して来た。次年度は市民活動団体の人財発掘につなげるために、電子回覧を行う町会とつながり、市民活動団体の行事開催チラシ等の電子回覧依頼が出来る関係性を構築していくことで、さらなる広報・情報提供の充実化及び進化に向けて改善を図って行きたい。
  - ・ 2024（令和6）年10月1日で「つどい」開設丸20年を迎えるにあたり、前述の情報のアーカイブスの有効活用も含めて、情報提供及び広報の新しい媒体として仕組みを確立していく事が今後の改善点である。
- 情報提供及び紹介や考え方の提供による相談・来館目的が定着化
  - ・ 相談対応による紹介からマッチング及び連携につながる施設であることを、啓発・広報を行うことが必要である。
  - ・ 市民や多様な活動主体がつながるための基礎となる情報提供の充実を引き続き図りながら、事例収集や実践等による考え方の提供を行い続けることを前提に、さらにマッチング・連携につながった情報を発信する体制を整えることが改善点であり課題である。
- 中間支援の必要性・啓発のための事例構築

- ・ 中間支援は、大きく3つの役割があり、ひとつ目は、媒体になり情報等が行き届かないところに情報提供等を行うことによる支援・サポートを行う役割。ふたつ目は、地域資源（人・もの・資金・場所・情報など）をコーディネートし連携といった協働を推進し、公益を生み出す一助も行う役割。みっつ目は、多様な活動主体の活動目的や価値を広めるために伝え広め、加えて活動内容及び目的や価値など解説を行い、活動主体の価値や信頼・信用を高める役割。中間支援は、連絡・援助・助言を通じて、多種多様な役割がある。
  - ・ ほぼ全てにおいて物やサービスと言った見えるものではなく、つながりなど見えないものを扱い、また大半は財以外のものを生み出すことが多く、わかりにくい。しかし、多様な活動主体は、物やサービスなど目に見えるものや成果が見えやすいものに取り組み、時には財以外も生み出すが、財も生み出している取り組みも多い。そういったところが、中間支援を意識して取り組むと地域資源が集まり、連携を深め協働が育まれる。地域活性化につながり、公益を生み出す可能性が高まる。その中間支援をこれからもどのように意識をして取組めばよいか、取組む必要性や意義など事例を構築しながら啓発して行く事がさらなる、地域社会における公益づくりの寄与につながる。これまで意識をしながら取組み、今後もそれらを意識しながら取組む。
- 中間支援を行う人財と事業を残すことが最終目的
- ・ 人や社会のお役に立ちたいと心から想い、世界の平和・人類の平和を心から願いながら、中間支援を行い、公益を生み出す『人財』と『事業』を残して行くかである。
  - ・ そのための「人づくり・人育て」が、人間性・人格を育み、目に見えない中間支援を遂行し公益を生み出す支援である情報提供やコーディネートが推進できると核心を持って今後も取り組んで行く。そのためにもう1名のフルタイムスタッフの人財及び雇用を確保していく事が課題である。